

登山に趣を添える

円山八十八カ所

手軽なハイキングコースとして市民に親しまれている円山の登山道。この道沿いにある円山八十八カ所の由来を紹介します。

札幌の自然歩道「円山ルート」には、八十八カ所ルートと動物園ルートがあります。

この円山山頂までの登山道は、大正三年に、円山村の開拓功労者である上田万平・善七兄弟が開きました。円山原始林を多くの人に紹介しようと考えたからです。同時に、善七氏は、成田山新栄寺の住職らと相談し、この登山道に沿って、四国八十八カ所にちなんだ八十八体の観音像を置くことにしました。

もともになった四国の八十八カ所は、真言宗の高祖弘法大師（空海）が修行を積んだ遺跡で、信仰者が巡礼する所として有名です。そこで、四国から本道に移住してきた札幌近郊の苗穂、篠路、石狩、当別、手稲などの信仰者有志に、観音像の寄進を呼びかけ

ました。すると間もなく応募は満たされ、八十八の像が建立されたのです。

八十八カ所ルートの入口から頂上付近まで並ぶ観音像はその後の信仰者の献像により、今では二百体以上になっています。

大正四年には円山八十八カ所入口に大師堂が建立され、弘法大師の像が祭られるようになりました。その後、境内には大日如来像、不動尊像、大師いろは歌碑や、開山碑などの仏像や石碑が立ち、大師が残した徳をたたえています。

また、大師堂前の井戸水は、登山者ののどを潤し、信仰深い人々に竜神さまの水といわれる霊水とされています。

毎年五月に山開き、十月に山納めがあり、祈願をする巡拝者や、霊場（仏閣などのある神聖な地）の信仰者、一般市民の参拝者などが訪れます。信仰者に限らず、家族連れやグループのハイキング、草木や野鳥、リスなどの観察、散歩などのために訪れる人もたくさんいます。

登山道は、都心にほど近い場所にありながら、今も自然と深くふれあうことができ、山頂から市街も



円山八十八ヶ所の登山道は気楽に登山を楽しめる

見渡せる憩いの場となっています。

(平成九年六月号・第三十九回)